

広島・草戸千軒町遺跡

1 所在地 広島県福山市草戸町

2 調査期間 第三五・三六次調査 一九八五年(昭60)一月~

一九八七年三月

3 発掘機関 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所

4 調査担当者 代表 松下正司

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 平安時代~江戸時代(中心は主に鎌倉・室町時代)

7 遺跡及び木筒出土遺構の概要

第三五次調査区は、遺跡包蔵中洲の中央部西端に位置し、東西約三五m、南北四〇mの約一四〇〇m²である。



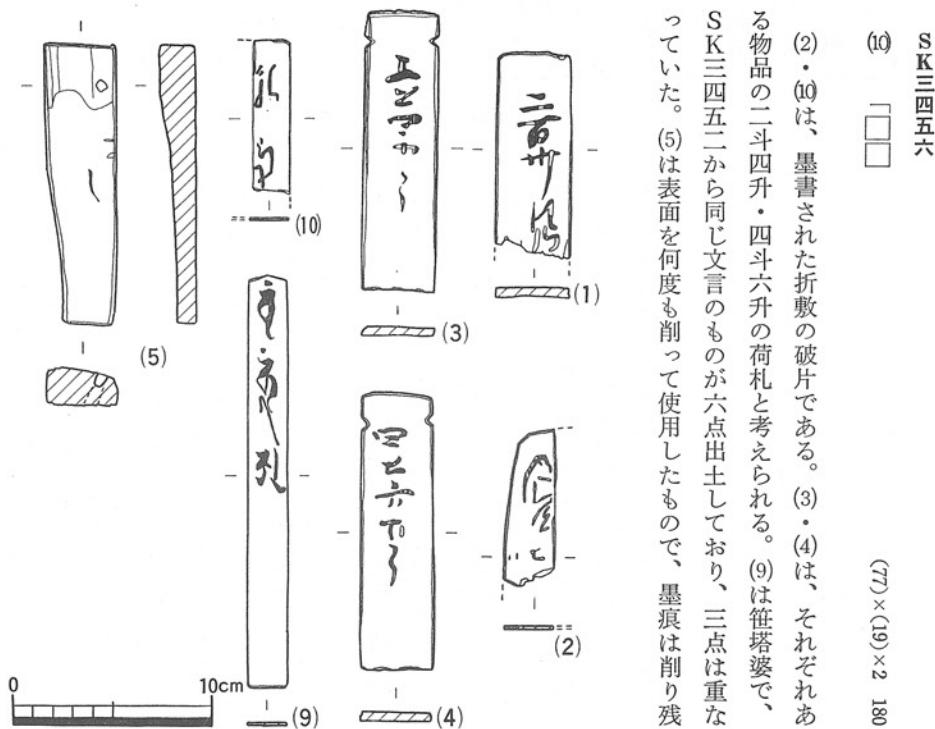
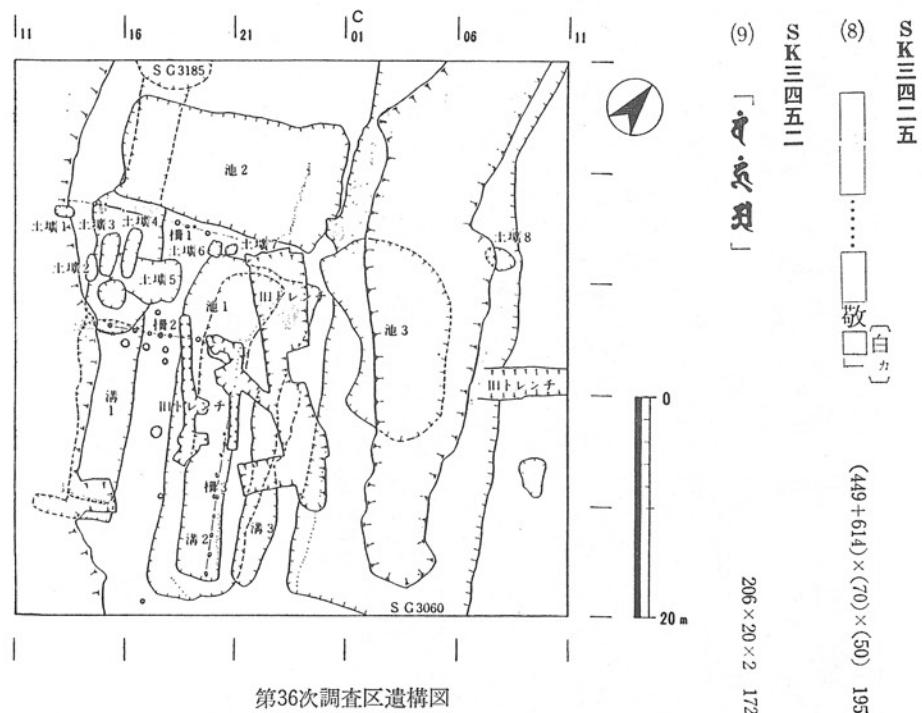
第35・36次調査区位置図

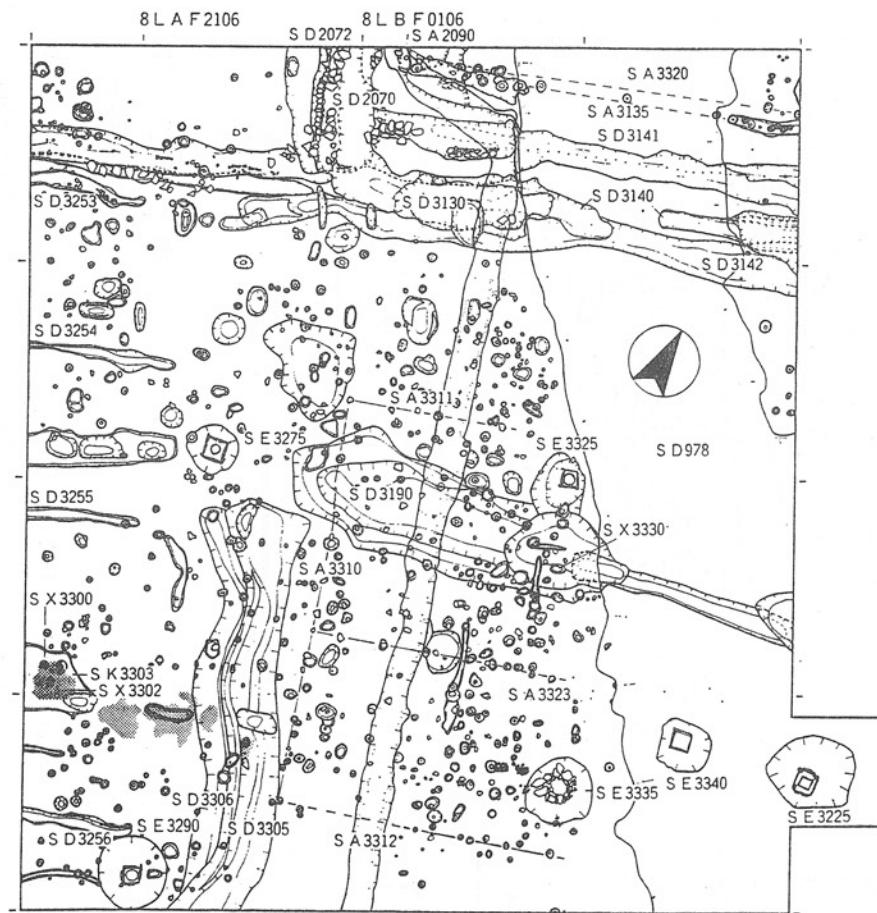
SD三一四〇は室町時代前半頃の東西溝で、南北方向のSD二一〇七〇と結ばれている。東側の第三四次調査区でSG三〇六〇池に流れ込んでいたことが明らかになっており、全長は六〇mになる。

SE三二七五は鎌倉時代後半の木組の方形井戸で、径一・三mの掘形に、一辺一・一m、深さ一・四mの井戸側を持ち、井筒として曲物が据えられていた。内部から、多量の土師質土器、杓子状木製品・折敷・漆器・下駄などの木製品、骨角製の「さいころ」などが出土している。

第三六次調査区は、中洲の中央部に位置し、東西五〇m、南北五

この調査区北半部では、中洲北部に広がる室町時代後半の町囲。町割のための大規模な柵囲が完結し(SA二〇九〇・三一三五)、全体では、概ね東西九五m・南北一四五mの規模になる。またこの柵囲の外周を、鎌倉時代後半から室町時代後半にわたる溝群が、複雑に切合って巡っており(SD二〇七〇・二〇七一・三一三〇・三一四〇・三一四一・三一四二)、長期間、一定方向で町割として機能していたものと考えられる。また南部では、室町時代後半の小規模な柵(SA三三一〇・三三一一・三三一二・三三一三)や、各時期の多数の柱穴・礎石群、六基の井戸(SE三二一五・三二七五・三二九〇・三三二五・三三三五・三三四〇)、約一二六〇〇枚の古銭を収納した埋甕遺構(SX三三〇〇)などを検出した。木筒はSD三一四〇から一点、SE三二七五から三点出土している。





第35次調査区遺構図

されたものと考えられる。(8)は上部と下部とは直接接合しなかつたが、調査時の状況から、同一のものと考えられる。(6)は頭部を五輪形に整えた板塔婆で文字が切れる所に木釘が残っている。(7)は細い丸木の片面を削つて墨書したもので、柱状の塔婆である。

關氏子集

№
161
一九八六年

福島政文・田辺英男・大上裕士・篠原正治「草戸千軒町遺跡第35次調査概要」(同 No. 163 一九八七年)
下津間康夫・福島政文「草戸千軒町遺跡第36・37次調査略報」(同 No. 165 一九八七年)

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒町遺跡－第三五・三六次発掘調査概要』（広島県草戸千軒町遺跡調査研究所年報一九八六、一九八八年刊行予定）
(下津間康夫)